

ソビエト國より西歐間への連絡

ソビエト共和國より西歐に赴くには、大體左の三主要交通経路がある。

A リガを経由する線

B ワルソーを経由する線

C ヘルシングフォールス又は(オーボ)經由

今之を詳述すれば

第一 リガ經由

其の經由は、莫斯科を起點として、ラトヴィア、リスマニア、東プロシヤ及波蘭を經由して獨逸に至るもので毎日一回列車の直通接續があるので他の線路よりも甚だ便利だ、然して其經由地點は、莫斯科發(ウインダウスキー驛)……ザバトナドビナ……ルジエフ……ベルキエドウキ……セベージュ(此の驛はソビエト國側國境驛だ)……ゼリユツベ(此はラトヴィア側國境驛)……リガ……メイトネ(ラトヴィア側國境驛)……ジョンシキス(リスマニア側國境驛)……アイドクレーネン(東プロシヤ側國境驛)……ケーニヒスベルヒ……マリエンブルグ(東プロシヤ側國境驛)……デイルシャウ(波蘭側國境驛)……コーニツク(波蘭側國境驛)……フナルシヤオ(獨逸側國境驛)……ランズベルグ……伯林。

(1) 列車の設備其他

莫斯科リガ間には、準急行があり、伯林間には直通列車が運轉してゐる。

莫斯科リガ間の直通車は、蘇國鐵道及びラトヴィア鐵道の軟床車を交互に使用し、通常一輛を運轉するに過ぎない、西歐に往來する旅客は、此直通車に座席を獲得せざれば、莫斯科發の場合に於ては、セベージュに於て乗換を成し、他の車輛に便乗して、シルベに至り、同驛より、リガに直通する、萬國寢臺車會社の車輛に乘組む外なく甚だ不便である。

莫斯科リガ間の軟床車は、割合清潔であるが、洗面所及便所は、車の兩側に各一個しかない、起床時の混雜甚だし、又旅客の求めに應じて、寢具を貸付けてゐるけれど極めて粗末なものであるから冬期の旅行には別に自ら毛布を用意すべしだ。

リガ、伯林間の直通列車にはオステンダ及巴里に直通する萬國寢臺車會社の一、二等合造の寢臺車の外獨逸國有鐵道の一、二等、三等車を聯結してゐる。

また食堂車はラトヴィア、エストニア内では萬國寢臺車會社(ワゴンリー)のもの、又獨逸國內に於ては中歐旅行案内局(ミトロバ)のものを使用してゐる。

リガの乗換は同一驛内であるが、莫斯科より到着するホームと伯林へ出發するホームとは數町を隔て一旦屋外に出て更に高架式のホームに行かねばならぬので稍不便である。尤も莫斯科

欧州旅行案内 海外旅行案内社 昭和2年4月7日發行

科でデルトラの乗車券を購入したる者は到着驛のプフェットで休息してゐればデルトラといふ名前入りの帽子を着用した案内人が出て來て親切に案内してくれるから安心して旅行が出来る。

(2) 接續時間表

|     |          |          |
|-----|----------|----------|
| 第一日 | モスコイ發    | 二十三日三十分  |
| 第二日 | セベージュ着   | 十八時      |
| 同   | 同發       | 十九時三十五分  |
| 同   | シルベ着     | 二十時三十五分  |
| 同   | 同發       | 二十一時三十五分 |
| 第三日 | リガ着      | 六時十五分    |
| 同   | 同發       | 七時四十分    |
| 同   | ウイルバーレン着 | 十七時五十五分  |
| 同   | 同發       | 十八時五十分   |
| 第四日 | 伯林着      | 九時十九分    |
| 同   | 伯林發      | 九時三十五分   |
| 第四日 | リエージ着    | 二十三日三十分  |
| 同   | オステンダ着   | 八時二十九分   |
| 第五日 | 倫敦着      | 十六時三十分   |

第二 ワルソーを經由して

此も又リガ經由と同じく莫斯科を起點とするのだが其の通過國は、唯だ、波蘭一國のみで、直ちに獨逸に達する事が出来るから、入出國及通過等の手續はリガ經由に比し極めて簡便だ。唯だ同経路には、目下の處、一週三回の聯絡列車があるのみだから、交通上不便を感じる點が多いのみならず、ゲージの異なる關係上、蘇、波兩國の國境で乗換をせねばならぬ譯だが、同所は設備甚だ不充實な爲め、旅客が非常な迷惑と不便を感じる事が尠くない、然し此の経路は、莫斯科、伯林間に於る最短の旨で、即ちリガ經由に比して一九二千米も近いのだ、そして其の經由地點は、莫斯科發(アレキサンドロフスキー線)……ミンスク……ネゴロイエ(ソビエト側國境)……ストロフ(波蘭側國境)……ワルソー(中央驛)……ポーゼン……スバチン……ベンチエン……ステテン(獨逸側國境)……フランクフルト……伯林。

(1) 列車の設備と接續

蘇波兩國の境に於ける、乗換驛は、莫斯科發の場合に於ては、ストロフ驛、ワルソー發の場合に於ては、ネゴロイ驛である。

又、蘇國鐵道内に於ては、舊萬國寢臺會社の寢臺車を連結してゐるが、従事員は、露語以外の國語を解する者が殆んど無いので、甚だ困る場所が多い、之に反して、ソビエフト國境よりワルソーに至る間には、萬國寢臺會社の一、二等車が運轉されてゐるから不便が無く愉快に旅行が出来る。

又、ワルソー着發の列車には、オステンド及巴里に直通する、萬國寢臺會社の一、二等合同寢臺車を各一輛宛連結してゐるので、伯林旅客諸君は此鐵路を取れば、途中乗換の煩を省く事が出来て、伯林まで鐵路一驅直通が出来る。

食堂車は、莫斯科ネゴロイエ間、ワルソース、ズバジン間及、ステンチ伯林間に聯絡してゐて、ソビエフト國有鐵道、波蘭國有鐵道及中欧旅行案内局でそれ／＼經營してゐる。

## (2) 接續時間表

|     |        |              |
|-----|--------|--------------|
| 第一日 | 莫斯科發   | 十五時三十分 (日火木) |
| 第二日 | ネゴロイエ着 | 七時四十分 (月水金)  |
| 同   | 同發     | 八時十分         |
| 同   | ストルプツ着 | 九時五十分        |
| 同   | 同發     | 十一時          |
| 同   | ワルソー着  | 二十時十分        |
| 同   | 同發     | 二十一時         |
| 第三日 | 伯林着    | 九時十六分 (火木土)  |
| 同   | 同發     | 九時十六分        |
| 第四日 | ブラッセル着 | 〇時四十八分 (水金日) |
| 同   | 同發     | 六時三十三分       |
| 第四日 | オステンド着 | 八時二十九分       |
| 同   | 倫敦着    | 十六時三十分       |

## 第三 ヘルシングフォルス(又はオーボ)經由

此の線は、レーニンググラードを起點として芬蘭經由ストックホルムに至り、同地より西歐諸國に到達するので、其距離、三經路中最も長く、従つて所要日數も多いけれども、歐洲旅行中に通過觀察するには、其位置の關係上、旅行日程を作るのに、甚だ困難な芬蘭及びスカンデナビヤ半島方面を通過する事が出来るので、往路か復路かに之を利用すれば、旅客諸君は、あこがれの、北歐文明に接し且之を探究する事が出来るといふ譯だ。

更に、此の經路では、鐵路の外、芬蘭ストックホルム間には、汽船の便を借る必要あり、殊に冬期は、結氷の爲に、其の航行に困難と不便を感じる事があるが然も通過國が少いのと、ストックホルム以西、主要都市への直通車が出るので、案外コンクホタブルな旅行を續ける事が出来る。

欧州旅行案内 海外旅行案内社 昭和2年4月7日發行

然して其の經由地點は

レーニンググラード……ベルオストロフ……ラジヤジョキー……シモラ……ラチ……ケラヴ  
ア……ヘルシンキ……ストックホルム……オーボース……マルメトレレブルグ……サスニ  
ツク……ストラルヴンド……伯林……巴里

## 接續時間表

|     |            |             |
|-----|------------|-------------|
| 第一日 | 莫斯科發       | 二十二時        |
| 第二日 | レーニンググラード着 | 十時四十分       |
| 同   | 同發         | 十六時二十分      |
| 第三日 | ヘルシングフォルス着 | 七時四十五分      |
| 同   | 同發         | 八時四十分       |
| 同   | オーボ着       | 十四時三十一分     |
| 同   | 同發         | 二十時 (月火木金土) |
| 第四日 | ストックホルム着   | 十時          |
| 第四日 | ストックホルム發   | 十時四十一分      |
| 第五日 | トレンボルグ着    | 二十二時三十三分    |
| 同   | 同發         | 二十二時五十八分    |
| 第六日 | サスニツツ着     | 三時八分        |
| 同   | 同發         | 三時四十分       |
| 同   | 伯林着        | 九時二十九分      |
| 同   | 同發         | 十三時八分       |
| 第七日 | 巴里着        | 十三時三十分      |

以上で、露國を経て、歐洲に向ふ經路は一と通り記るし得た積りだ、旅客諸氏は、行路を日本郵船の汽船に乗じて、英國に向ひ、又はアメリカを経て歐洲に入り、歸途此線を通られてもよし、行きがけに此の線路を通つて歸途米國を通過せらるゝも面白い。

今此項を終らんとするに當つて、ソビエフト共和國の都會又は觀光個處を略述すれば左の如し。

莫斯科……人口實に二百二十萬餘の大都會、帝政時代の舊都であるは既知の通りだ。

觀光個所として、著名なのは、クレムリン舊宮殿……レーニン廟……トレンチヤコフスカヤ美術館……クスタリヌイ博物館……ボリシヨイ劇場……エクスペリメンタリヌイ劇場……革命劇場等がある。

ホテルは其數三十餘に及んでゐるが、サボイ又はユーロペイカヤ等が評判がよい、レストランレトでは、ボリシヤモスコフスカヤが一流だ。

レーニンググラード……人口百十萬、莫斯科から急行で十三時間を要する。

觀光個所は、カザン寺院……エルミタージュ革命博物館(舊冬宮)……イサク寺院……スモールニー……パリシヨイオペラ(舊マリンスキー座)……パリシヨイドラマ座(舊マールイ座)……郊外デツキーサード(舊ツァールスコエセロ)